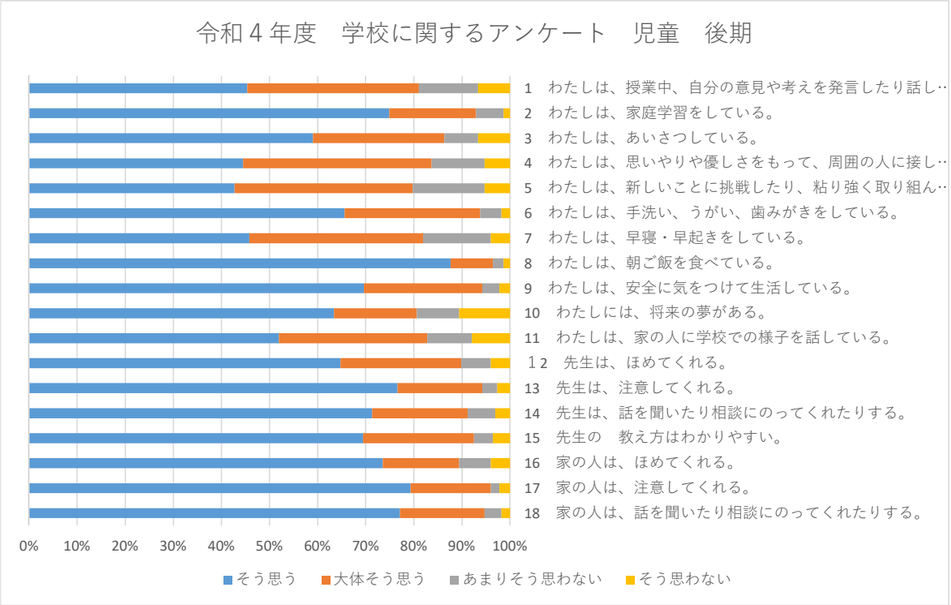
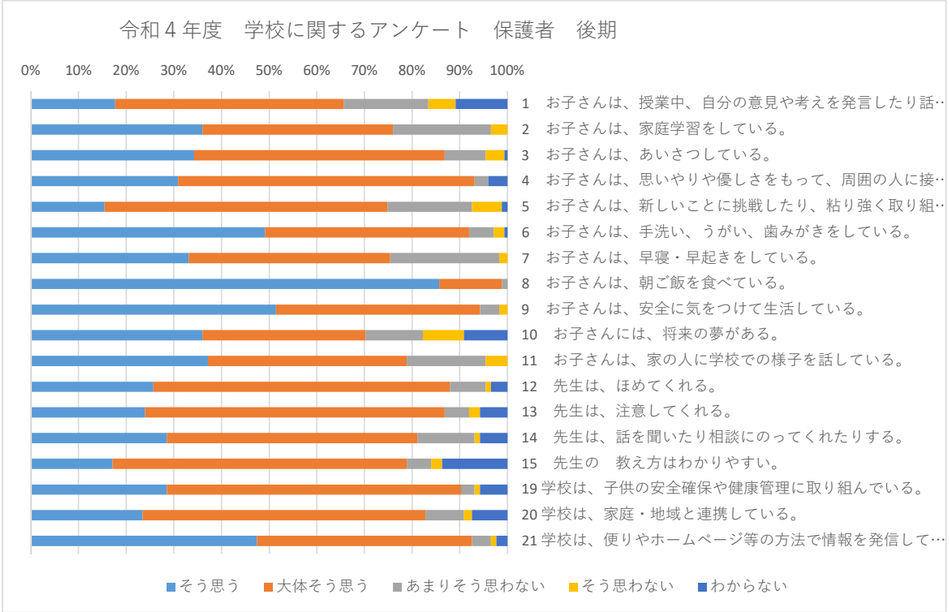
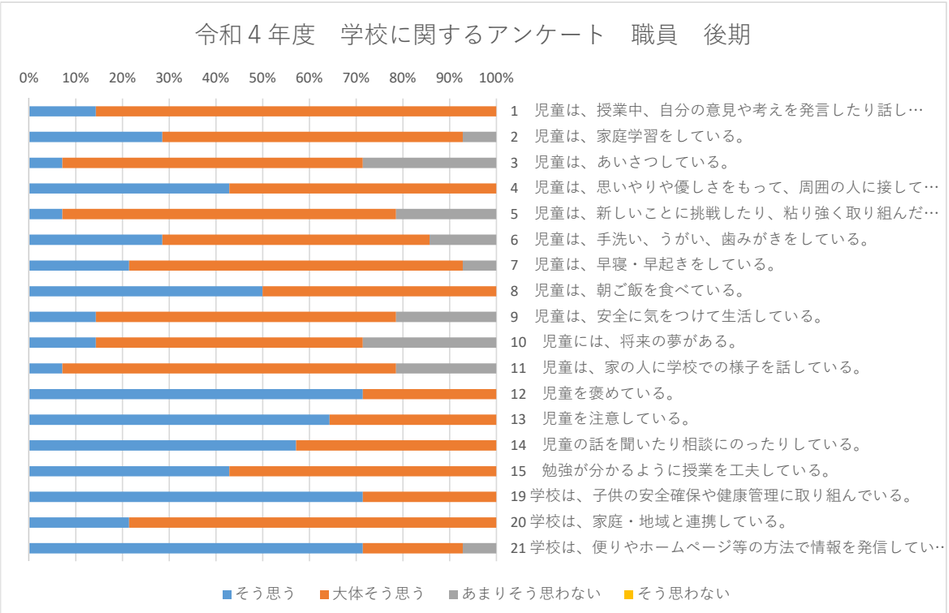
令和４年度　浜松市立北浜東小学校　後期　学校評価







○　重点　前期→後期

「１　学習中、自分の意見や考えを積極的に発言したり話し合ったりしている。　目標80%」

児童	80.8%	→	81.1%
保護者	68.9%	→	65.7%
職員	87.5%	→	100　%

「４　思いやりや優しさをもって、周囲の人に接することができる。目標90%」

児童	84.0%	→	83.7%
保護者	92.8%	→	93.1%
職員	93.8%	→	100　%

「５　新しいことに挑戦したり、粘り強く取り組んだりできる。目標80%」

児童	84.8%	→	79.7%
保護者	78.9%	→	74.9%
職員	68.8%	→	78.6%

１　自己評価

《児童の傾向》
・１に関して、教師の評価よりも低くなっていることについては、自分自身がどのような行動変化があれば達成できたと言えるかが見通せないことに起因していると考えられる。
・４に関しては、大人よりも低い評価数値になっていることは、自己有用感や自己肯定感が低い児童がいると思われる。また、人間関係を築く力や適切なコミュニケーションをとることがまだまだ未成熟であるともいえる。
・５に関しては、粘り強く取り組んでも必ずしも成し遂げることができないこともあるため、その時に挫折感を感じる場合もあろう。また、自分の力に適切な（ちょっと頑張れば、成し遂げられる）目標設定ができていないこともある。
《保護者の傾向》
・学校生活場面での項目、１と５については、実際の児童の様子を常に見ているわけでないため評価が低いか、我が子によりよくなってほしいという願いから厳しくなってしまうのかもしれない。

２　学校関係者評価　（２月８日（水）開催）

・４に関してはその時々のトラブルや障害で評価していることが予想されれため、大人のフォローが必要になってくる。より一層児童にあたたかい言葉かけを推進してほしい。
・保護者とすると１と５は謙遜により評価が厳しくなってしまうのかもしれない。
・２０に関して、学校運営協議会や地域ふれあい活動などを通して連携を図っているが、保護者評価では１５％ほど低い評価の割合がある。主旨や活動の具体が一層広報していく必要性を感じる。

３　今後の改善方策

１について（基礎基本の定着と表現機会のさらなる確保）
積極的に表現するために欠くことのできない基礎基本の定着を図り、タブレット等をツールとして一層協働的な学習に取り組み、児童が自己表現することや話し合うことが楽しいと感じる学習に取り組みます。
４について（自己有用感・自己肯定感のさらなる醸成）
帰りの会や委員会活動の「いいこと見つけ」に取り組みます。道徳科学習を一層充実させていきます。今以上に、その子のよさをその子に伝えていきます。校内でのボランティア活動を意図的に開始します。児童間のトラブルなどには早期に対応するとともに、その後も継続して指導や見守りを行います。
５について（目標設定の工夫・人ととの出会いの場の増加）
目標設定場面に指導をいれ、自分が立てた目標に対する取り組み状況を振り返る場面を設けます。活動意欲が高まるような出会い（高学年においては職業人と、学校全体として地域の方との出会い）を充実させます。